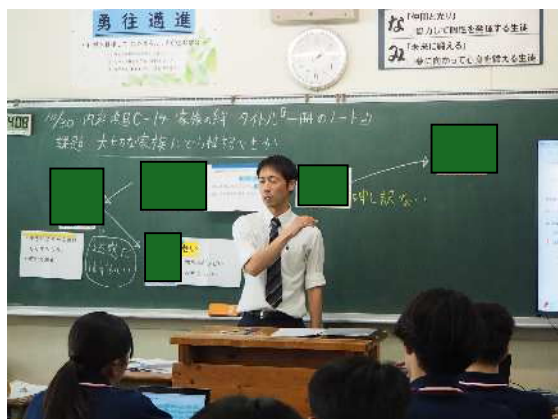


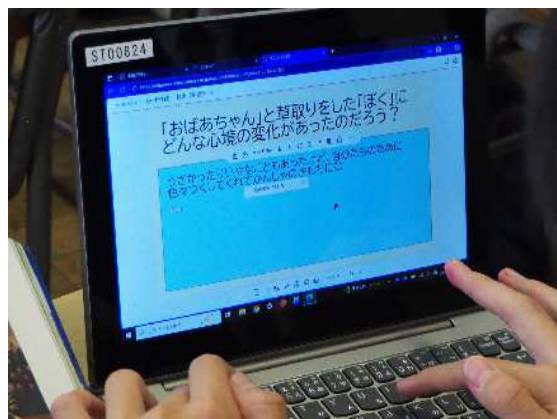
# 三郷市立南中学校

中学校・特別の教科 道徳

教材名： 「一冊のノート」(「明日への扉 3年」学研)



【自分事として捉えるための導入・発問の工夫】  
アンケート結果を提示し「この態度を親が死ぬまで続けるの?」という発問により一気に生徒を引き込み、必要感をもたせていた。



【ICTの効果的な活用】  
タブレット端末内に意見を記録し、教師が意図的に全体で取り上げることで、発言が苦手な生徒への配慮や本音を出せる環境を整えていた。

## 参会者アンケート等から

研究会のあり方・全体的な感想

【授業・協議・全体について】 ※一部文末等を編集しています。

○生徒の実態を踏まえた課題設定を行い、生徒の必要感に迫るような導入を行うことで、考え議論する道徳が体现されていたように感じました。また、ICTを有効的に取り入れることで、発言が苦手な生徒についても意見を出すことができたように思います。先生の授業や協議から得た学びを今後の道徳の授業に生かして参ります。

○主発問にたっぷり時間を取るために、今回の長い教材のあらすじをさらっと流す発問構成が良いということ、学習支援ソフトの設定の仕方、中学三年生の発表をしにくい実態等を踏まえた工夫などについて、活発な協議ができました。

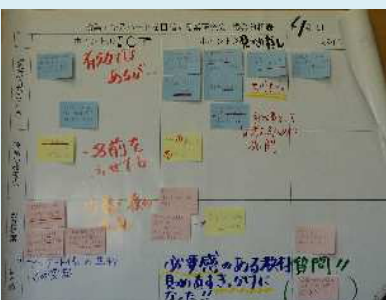
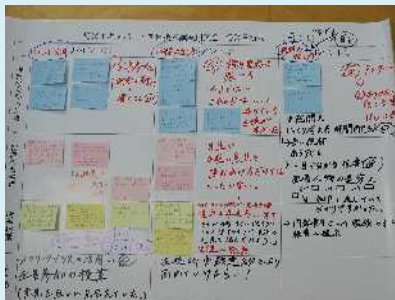
○生徒の実態に合わせて課題を決めるということが印象に残りました。各学校、各クラスで生徒の実態は違うのでそこをよく見て、今の生徒に何が必要かを考えていきたいと思いました。



○中学校の道徳授業を初めて拝見して、とても勉強になりました。特に、導入のアンケートで児童の実態に触れた際の「親は自分より先に死ぬよね。じゃあ、そういう態度を死ぬ直前まで続ける？このままでいい？」の問いかけが、上手だなあと思いました。課題「大切な家族にどう接するべきだろう。」に必要感をもたせることができていたと思います。

○学習指導要領の文言の「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して」が、四つの学習活動を表してそれを授業に組み込むことが重要だというお話が印象に残りました。主人公のマスクを被せて、自我関与した状態で、登場人物の気持ちを考えさせることが、自己を見つめることにつながるとか分かりました。

○他の先生方と情報を共有し、授業の良かった点、改善点だけでなく具体的な提案について話し合うことができました。また、協議の中で出てきた疑問についてもフィードバックがあったので参考になりました。



授業者からの説明

『私の授業の観てほしいポイント』に沿った研究協議



協議内容の発表

指導者からの御指導